

文芸きくち

万句の里俳句会 10月句会

鴨の群だんだんほどけゆく日和
 台風のそれて安堵の畑仕事
 母の忌やこころを濡らす秋の雨
 もつれては風と別れる秋の蝶
 さざ波の岸边小走る湖の秋

隈部 輝子
 田中 美智
 中路 郁子
 松永 久子
 光本とよいち

せせらぎ俳句会 10月例会

秋寂ぶや車窓に過ぎる被災跡
 帰り際月がきれいと言葉が言う
 学童に手を振り返し今朝の秋
 婿やかに解して今朝の栗おこわ
 台風で怖がる孫に添寝する

五丁 義昭
 藤本アツ子
 森 正子
 坂崎ユキ子
 青木ユリ子

旭志文芸教室俳句の会 10月詠草

風死すや部屋に一輪意のままに
 湖面より登りて月の高さかな
 水撒きが日課となりし酷暑かな
 野良帰り集まる場所や夏木立
 我が葬も慶事となるかこぼれ萩

芹川 蓉子
 稗田 達恵
 中尾ヨシコ
 芹川のり子
 水谷 ミネ

七城短歌会 10月詠草

阿蘇山の怒りなるかや噴煙を風にまかせて火山灰撒き散らす
 隣なる保育園きょう運動会見ら応援のかん高き声
 そちこちにウンカの被害あらわなり気懸かる我が田目を凝らしみる
 残暑なほ厳しき歩道目の前をゆっくり横切る蛇熱かろう
 ゆかしがる伝統鎮守のお籠りに手のひら重ね御供飯いたたく

嶋田 晴美
 緒方 寛子
 緒方 正俊
 高木 精
 佐々 重弘

「里」短歌会 10月詠草

先人の知恵と汗とで生まれたる兵頭井手よ実る稲田よ
 朝庭を巡りて楽しむかご取り二合の飯に炊き込みて秋
 芋畑続き実る黄の稲田似合わぬビルが田畑に迫る
 味噌汁にむかご加わり具沢山五感働く秋の食感
 ヒヨドリは金木屋で遊んではピーヨピヨピとパラボラへ飛ぶ

林 淑子
 山城 雅子
 岩本サヨ子
 梶原美智代
 江頭 桂子

溪流短歌会 11月詠草

法師蝉夏の終りを告げに来る何処より来し声のか細く
 知らぬ間に老いは進めり健診の検査結果は去年より悪し
 発芽せぬ秋菜にきびしき太陽のやわらぐを祈り三度種蒔く
 初秋来て生垣を這う朝顔は薄紫の三つが咲きて
 強風に三年前の地震思い打ちつける雨眠れぬ一夜

岩根 博恵
 山田 弘子
 山城 雅子
 堤 よしみ
 田中 遥子

菊池短歌会 11月詠草

我が服に爪たてねだる猫のミイ昨夜切られし爪がからからぬ
 「頑張ります」に過不足なし青春というものはかくなるぞ百人一首大会
 人々の喜怒哀楽をあめつちを繋ぎて光る神さぶ阿蘇山
 代替り遠き涼しき景色にて遠景は見ゆ戦前戦後
 ゆらゆらと老いづく我のかたらわにペンとひとひら紙ありて良き

川口すみ子
 古賀 勝士
 中川 愛子
 怒留湯健春
 安藤 則子

【お詫びと訂正】広報11月号「溪流短歌会 10月詠草」に誤りがありました。正しくは次のとおりです。お詫びして訂正いたします。

黒バスの車窓に広き田の面の黄金色つき豊かさ揺らす
 里バスの車窓に広き田の面の黄金色つき豊かさ揺らす
 在りし日に夫の植えたる君子の蘭庭の片隅楚々と花咲く
 在りし日に夫の植えたる君子の蘭庭の片隅楚々と花咲く
 一本の杉の木立に絡まりて紅葉の蔭は落暉に映える
 一本の杉の木立に絡まりて紅葉の蔭は落暉に映える

山城 雅子
 山城 雅子
 堤 よしみ
 堤 よしみ
 中川 愛子
 中川 愛子

万句の里俳句会
 せせらぎ俳句会
 旭志文芸教室俳句の会

井芹 ☎090(1342)2151
 藤本 ☎0968(38)4087
 中尾 ☎0968(37)2578

七城短歌会
 「里」短歌会
 菊池短歌会

佐々 ☎0968(24)3761
 溪流短歌会
 木原 ☎090(5284)2418
 安藤 ☎0968(25)4285

入会希望など詳しくは、それぞれの句会や歌会にお尋ねください。